

「残念」と「嫉妬」の心情を表す和語の用例分布について

— 上代から近世まで —

陳 崗* · 吉田 則夫

日本語心情語彙の通時的研究の一環として、日本文学史上の代表的な作品とみられるものを対象に、「残念」と「嫉妬」の心情を表す和語の用例分布を調査した。本稿では、その用例分布表を掲示し分布の特徴を指摘した。この分野の語の出現頻度は、源氏物語を始めとする平安女流文学作品においてとりわけ際だつ。現代語につながる「くやむ」「妬まし」は、中世に派生形として出現した語である。形容詞からの動詞派生語「～がる」の用例は、ほとんど「くち惜し」と「妬し」に集中している。

Keywords : 心情語彙, 惜し, くち惜し, くやし, 恨めし, 妬し

心情語彙は、喜怒哀楽など、種々の心情を表す語からなっている。これらの語は時代の変遷につれて意味変化するものが多い。本稿は、美的語詞などのプラスのニュアンスをもつ語彙に対して、マイナスのニュアンスをもつ心情語のうち、特に「残念」と「嫉妬」の心情を表す和語について取り上げる。上代から近世にかけての主要文学作品における用例分布を一覧表の形で掲出し、そこから認められる分布上の特徴を纏める。

本稿で対象とした「残念」と「嫉妬」の心情を表す和語とは、「惜し、惜しむ、くち惜し、くやし、くやしむ、くゆ、くやむ、恨めし、恨む、妬し、妬む、妬まし」の12語である。

調査に当たり、日本文学史上、各時代の代表的な作品とみられるものを基本として選んだ。テキストは主として『日本古典文学大系』(岩波書店)を使用するほか、『日本古典文学全集』(小学館)他を使用する場合もある。

用例の検索に当たって用いた索引は、その本文との関係によって以下の四つの類に分かれる。

まず、『日本古典文学大系』を本文とする索引は次の通りである。

- 1) 大野晋他編『伊勢物語総索引』
明治書院 1972
- 2) 塚原鉄雄他編『大和物語語彙索引』
笠間書院 1975
- 3) 松尾聡編『落窪物語総索引』
明治書院 1967
- 4) 塚原鉄雄他編『狭衣物語語彙索引』
笠間書院 1975
- 5) 阪倉篤義他編『夜の寝覚総索引』
明治書院 1974
- 6) 坂詰力治他編『保元物語総索引』
武蔵野書院 1981
- 7) 坂詰力治他編『平治物語総索引』
武蔵野書院 1979
- 8) 笠栄治編『平家物語総索引』
福岡コロニー 1973
- 9) 峰岸明他編『古今著聞集総索引』
笠間書院 2002
- 10) 滝沢貞夫編『新古今和歌集総索引』
明治書院 1979
- 11) 増田繁夫他編『宇治拾遺物語総索引』
清文堂 1987

*兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科博士課程

岡山大学教育学部 国語教育講座 700-8530 岡山市北区津島中3-1-1

The distribution of examples of the Japanese words that express the feelings about "regret" and "envy"

CHEN Gang* and Norio YOSHIDA

*The joint Graduate School in Science of School Education (Doctor's Course), Hyogo University of Teacher Education
Department of Japanese Language Education, Faculty of Education; Okayama University, 3-1-1 Tsushima-naka, Kita-ku, Okayama 700-8530

- 12) 門屋和雄編『増鏡総索引』
明治書院 1978
- 13) 大塚光信他編『義経記文節索引』
清文堂 1982
- 14) 榊原邦彦他編『御伽草子総索引』
笠間書院 1994
- 15) 横山英監修『仮名草子伊曾保物語用語索引』
白帝社 1975

次に、『日本古典文学大系』を本文としていない索引に以下のものがある。これらについては、筆者が、逐一、大系本の本文とつぎ合わせ、大系本の用例として補正したものをデータ化した。このような処理をしたのは、用例を『日本古典文学大系』の本文に統一したいという研究上の意図によるものである。

- 16) 正宗敦夫編『万葉集総索引』
平凡社 1974
- 17) 高木市之助他編『古事記総索引』
平凡社 1974～1977
- 18) 瀬間正之編『古事記音訓索引』
桜楓社 1993
- 19) 石塚晴通編『凶書寮本日本書紀 索引編』
美季出版社 1981
- 20) 山田孝雄編『竹取物語総索引』
武蔵野書院 1977
- 21) 西下経一他編『古今集総索引』
明治書院 1958
- 22) 日本大学文理学部国文学研究室編『土左日記総索引』日本大学人文科学研究所 1967
- 23) 佐伯梅友他編『かげろふ日記総索引』
風間書房 1981
- 24) 榊原邦彦他編『枕草子総索引』
右文書院 1967
- 25) 東節夫他編『和泉式部日記総索引』
武蔵野書院 1959
- 26) 石井文夫他編『紫式部日記用語索引』
巖南堂書店 1968
- 27) 上田英代他編『源氏物語語彙用例総索引』
勉誠社 1994～1996
- 28) 池田利夫編『浜松中納言物語総索引』
武蔵野書院 1988
- 29) 東節夫他編『更級日記総索引』
武蔵野書院 1956
- 30) 時枝誠記編『徒然草総索引』
志文堂 1967
- 31) 西端幸雄他編『土井本太平記本文及び語彙索引』勉誠社 1997

- 32) 近世文学総索引編纂委員会編『近世文学総索引 井原西鶴』教育社 1988
- 33) 鈴木丹士郎編『雨月物語本文及び総索引』
武蔵野書院 1990

第三に、『新日本古典文学大系』（岩波書店）を本文とする索引は次のものである。

- 34) 小峰和明編『今昔物語集索引』（新日本古典文学大系別巻）岩波書店 2001

第四に、『日本古典文学大系』及び『新日本古典文学大系』に未収録の天草版平家物語は次のものを使用した。

- 35) 近藤政美他編『天草版平家物語語彙用例総索引』勉誠出版 1999

さらに、索引が作られていない作品など、以下の作品については、『日本古典文学全集』をテキストとして筆者が独自に対象の語を収集した。それらは讃岐典侍日記、方丈記、近松門左衛門集、英草紙、西山物語、春雨物語である。

以上の索引及び収集資料を用いて、「惜し」とそれを語幹とする「惜しむ」、「くち惜し」、それらの周辺の語「くやし」、「くやしむ」、「くゆ」、「くやむ」、「恨めし」、「恨む」、妬を語幹とする「妬し」、「妬む」、「妬まし」の12語の用例数を各作品ごとに調査した。

調査に際しては、次の規準に従った。

- a 形容詞の数量には、各活用形のほか、「――げなり」の形容動詞形、「――さ」の名詞形の用例数を含む。
- b 動詞の数量には、各活用形のほか、「――み」の名詞形、「恨み果つ」「たづね恨む」などの複合語の用例数を含む。

この規準に従って計量した用例数の分布は表1の通りである。

また、それぞれの作品における12語の用例の出現頻度を検証する試みとして、この12語の用例総数をそれぞれの作品の延べ文字数で割った結果、0.6%（パーミル）を超えた作品（集）は表2の16点である。

表1、表2から窺われる「残念」と「嫉妬」の心情を表す和語の用例分布の特徴を以下のように指摘することができる。

「残念」と「嫉妬」の心情を表す和語の用例分布について

表1 「残念」と「嫉妬」の心情を表す和語の用例分布表

| 作 品 | 惜 し | 惜しむ | くち惜し | くやし | くやしむ | く ゆ | くやむ | 恨めし | 恨 む | 妬 し | 妬 む | 妬まし | 合 計 |
|-----------|-----|-----|---------|-------|------|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|---------|
| 万 葉 集 | 85 | 17 | | 26 | | 8 | | 8 | 2 | 1 | | | 147 |
| 古 事 記 | | 2 | | 2 | | 1 | | | 9 | | 3 | | 17 |
| 風 土 記 | | 1 | | | | | | | 6 | | | | 7 |
| 日 本 書 紀 | 4 | 10 | | 1 | 1 | 23 | | 2 | 61 | 1 | 13 | | 116 |
| 日 本 靈 異 記 | 2 | 7 | | | | 3 | | | 4 | 1 | 5 | | 22 |
| 竹 取 物 語 | 1 | | 5 | 1 | | | | | 1 | 1 | 1 | | 10 |
| 伊 勢 物 語 | | 3 | | | | | | | 10 | | 1 | | 15 |
| 古 今 和 歌 集 | 15 | 8 | | | | 1 | | 2 | 14 | 1 | | | 41 |
| 土 佐 日 記 | 1 | 3 | 3 | | | | | | | 1 | | | 8 |
| 大 和 物 語 | 3 | 4 | 5 (1) | 2 | | 2 | | 2 | 11 | 3 | 2 | | 34 (1) |
| かげろふ日記 | 5 | 4 | 4 | 8 | | | | | 9 | 2 | | | 32 |
| 落 窪 物 語 | 4 | 4 | 18 | 1 | | | | 1 | 7 | 30 (5) | 1 | | 66 (5) |
| 枕 草 子 | 2 | 2 | 44 | | | | | 1 | 11 | 25 (6) | | | 85 (6) |
| 和泉式部日記 | | 2 | 7 | 2 | | 1 | | 1 | 4 | 2 | | | 19 |
| 紫 式 部 日 記 | 1 | 2 | 1 (1) | 1 | | | | | 2 | 3 | 1 | | 11 (1) |
| 源 氏 物 語 | 42 | 51 | 293 (7) | 58 | | 4 | | 114 | 234 | 71 (4) | 2 | | 869(11) |
| 狭 衣 物 語 | 14 | 15 | 133 (2) | 35(1) | | 3 | | 33 | 39 | 11 (1) | | | 293 (4) |
| 浜松中納言物語 | 7 | 10 | 53 | 9 | | | | 16 | 37 | 8 (1) | | | 140 (1) |
| 夜 の 寝 覚 | 8 | 9 | 65 | 21 | | 4 | | 54 | 85 | 34 (1) | | | 279 (1) |
| 更 級 日 記 | 1 | 1 | 4 | 1 | | | | 1 | | | | | 8 |
| 讃岐典侍日記 | | 3 | 3 | 1 | | | | 3 | 2 | | | | 12 |
| 今昔物語集 | 20 | 98 | 31 | 16(1) | | 78 | | | 51 | 27 | 13 | | 334 (1) |
| 方 丈 記 | | | | 1 | | | | | 1 | | | | 2 |
| 新古今和歌集 | 16 | 16 | | 6 | | | | 5 | 39 | 1 | | | 83 |
| 宇治拾遺物語 | 6 | 14 | 11 | 6 | | | | 1 | 15 | 7 (2) | 1 | | 61 (2) |
| 保 元 物 語 | 9 | 15 | 15 | 2 | | 1 | | 5 | 6 | 4 | | | 57 |
| 平 治 物 語 | 5 | 12 | 10 | | | | | | 4 | | | | 31 |
| 平 家 物 語 | 34 | 50 | 28 | 4 | 2 | 1 | 1 | 17 | 39 | 1 | 1 | | 178 |
| 古今著聞集 | 5 | 18 | 21 | 4 | | 10 | | 4 | 25 | 2 | 2 | 3 | 94 |
| 徒 然 草 | 4 | 8 | 11 | 1 | | 4 | | 1 | 9 | 2 | 1 | | 41 |
| 増 鏡 | 2 | 6 | 28 | 2 | | | | 9 | 15 | 2 | 2 | | 66 |
| 太 平 記 | 26 | 83 | 16 | | | 6 | 1 | 4 | 70 | 1 | 5 | | 212 |
| 御 伽 草 子 | 37 | 15 | 13 | 9 | | | | 21 | 31 | | 7 | | 133 |
| 義 経 記 | 13 | 14 | 7 | 1 | | | | 3 | 9 | | | | 47 |
| 天草版平家物語 | 18 | 29 | 18 | 2 | | 1 | | 16 | 18 | 1 | | | 103 |
| 伊 曾 保 物 語 | 1 | 4 | 1 | | | 5 | 7 | | | | 3 | 2 | 23 |
| 好色一代男 | 5 | 17 | 7 | | | | | | 11 | | | | 40 |
| 好色五人女 | 11 | 7 | 9 | 1 | | 1 | | 2 | 10 | | | | 41 |
| 好色一代女 | 8 | 6 | 10 | 1 | | 3 | | 4 | 11 | | | 1 | 44 |
| 近松門左衛門集 | 47 | 21 | 49 | 7 | | | 21 | 21 | 98 | | 9 | 9 | 282 |
| 英 草 紙 | 2 | 9 | 2 | | | 1 | 2 | 1 | 22 | | 2 | | 41 |
| 西 山 物 語 | | 2 | 7 | 4 | | | | | 7 | | 1 | | 23 |
| 雨 月 物 語 | 2 | 3 | 1 | | | 4 | | | 20 | | 1 | | 31 |
| 春 雨 物 語 | 5 | 1 | 1 | | | | 1 | 1 | 4 | 4 | | | 17 |

※作品はほぼ成立時期順に配列した。

※空欄は用例の見あたらない場合である。

※ () の中は形容詞派生語「～+がる」の数量であり、外数である。

- [1] 出現頻度上位16点の作品のうち、平安文学作品は7点あり、ほぼ半数を占めている。とりわけ、源氏物語及びその影響を受けたとされる夜の寢覚、狭衣物語、浜松中納言物語などの女流文学作品はこの分野の語の出現頻度が際だつ。
- [2] 出現頻度上位16点の作品には、西山物語、好色物、英草紙、近松門左衛門集、雨月物語などの近世文学作品（集）が5点ある。調査対象とした近世文学作品はほぼすべて入っている。
- [3] 上記のほか、この分野の心情語の用例数が見掛け上、多い作品には、今昔物語集（335例）、太平記（212例）、平家物語（178例）、日本書紀（116例）などがあるが、これらは作品の総量が反映したものと考えられる。
- [4] 「くやし」から派生したとみられる「くやしむ」は上代から用例（日本書紀1例、平家物語2例）がみられるが、計3例で数が極めて少ない。同様の意味を表す本来の動詞「くゆ」が上代から用いられているためであろう。
- [5] 現代語につながる「くやむ」「妬まし」は、中世に派生形として出現した語である。
- [6] 形容詞からの動詞派生語「～がる」の用例は、「くやし」に2例（狭衣物語1例、今昔物語集1例）あるほかは、「くち惜し」（11例）と「妬し」（20例）に集中している。
- [7] それぞれの語について、作品の総量を問わないで、用例数の多い作品の上位3位をあげると次のようである。

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 惜し： | 万葉85 | 近松47 | 源氏42 |
| 惜しむ： | 今昔98 | 太平記83 | 源氏51 |
| くち惜し： | 源氏300 | 狭衣135 | 寢覚65 |
| くやし： | 源氏58 | 万葉26 | 寢覚21 |
| くゆ： | 今昔78 | 書記23 | 著聞集10 |
| 恨めし： | 源氏114 | 寢覚54 | 狭衣33 |
| 恨む： | 源氏234 | 近松98 | 寢覚85 |
| 妬し： | 源氏75 | 落窪35 | 寢覚35 |
| 妬む： | 書紀13 | 今昔13 | 近松9 |

これらの用例分布がいかなる意味をもつかについては俄には言及し難い。今後の課題としたい。

表2 使用頻度上位の作品

| 順位 | 作 品 | 延べ文字数 (単位千字) | 出現頻度 (%) |
|----|---------|-----------------|-------------|
| 1 | 夜 の 寢 覚 | 187 | 1.50 |
| 2 | 狭 衣 物 語 | 233 | 1.26 |
| 3 | 浜松中納言物語 | 142 | 0.99 |
| 4 | 源 氏 物 語 | 956 | 0.93 |
| 5 | 西 山 物 語 | 25 | 0.92 |
| 6 | 天草版平家物語 | 125 | 0.82 |
| 7 | 新古今和歌集 | 106 | 0.78 |
| | 好 色 物 | 160 | 0.78 |
| 9 | 枕 草 子 | 135 | 0.67 |
| | 大 和 物 語 | 52 | 0.67 |
| 11 | 御 伽 草 子 | 200 | 0.66 |
| | 落 窪 物 語 | 107 | 0.66 |
| | 英 草 紙 | 62 | 0.66 |
| 14 | 近松門左衛門集 | 450 | 0.63 |
| 15 | 雨 月 物 語 | 51 | 0.60 |
| | 万 葉 集 | 246 | 0.60 |

注

- 1) 延べ文字数は日本古典文学大系本文データベース（国文学研究資料館）他に基ついて計量した概数である。近松門左衛門集は古典文学大系本文データベースで計量（一部独自に調査）した。天草版平家物語、英草紙、西山物語は独自に計量した。また、出現頻度は小数第三位を四捨五入したものである。

参考文献

- 1) 国文学研究資料館『日本古典文学大系本文データベース』
- 2) 宮島達夫編『古典対照語い表』笠間書院 1971
- 3) 犬塚旦『王朝美的語詞の研究』笠間書院 1973
- 4) 佐藤喜代治編『語彙研究文献語別目録』（『講座日本語の語彙』別巻）1983